



文部科学省  
国立教育政策研究所  
National Institute for Educational Policy Research

全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業  
幼稚園・小学校・中学校及び高等学校の学習指導要領等の  
実現状況の把握に関する実践的調査研究報告  
(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)

平成20年3月  
国立教育政策研究所

## はじめに

現行の幼稚園教育要領及び小学校・中学校・高等学校学習指導要領のねらいや目標の実現状況の把握については、教育課程研究センターの「全国かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業」において、平成15年度から実践的な調査研究に取り組んできました。

本年3月に幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領が告示されましたが、本事業の成果については、今後の教育課程や指導方法の改善に向けた資料・データとして、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会への報告等により、今回の学習指導要領の改訂に当たっての参考とされたところです。

このたび、本事業（平成15～17年度指定）における各研究指定校から提出された報告をもとに、学習指導要領の目標等の実現状況について担当調査官等及び企画委員が分析を行った結果をとりまとめました。各学校、教育委員会、教育センター、教育研究所等におかれましては、今後の教育課程や授業改善の参考にしていただければ幸いです。

また、本事業の実施にあたり、各校種、各教科等のそれぞれの指定校の先生方及び調査研究内容の企画や指定校等への助言を行っていただいた企画委員の皆様には、多大な御協力を得ました。御協力いただいた各位に、心から感謝の意を表します。

平成20年3月

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター長  
大槻 達也

## 目次

はじめに

目次

I	研究指定校を通した幼稚園教育の実現状況の把握について（幼稚園報告）	1
1	調査研究の趣旨	3
2	調査研究の実施方法	3
3	主な分析結果	3
4	平成 15・16 年度指定校一覧	8
II	研究指定校を通した児童生徒の学力の把握について（小学校・中学校報告）	9
1	調査研究の趣旨	11
2	調査研究の実施方法	11
3	主な分析結果	11
4	平成 15・16 年度指定校一覧	24
III	研究指定校を通した生徒の学力の把握について（高等学校報告）	25
1	調査研究の趣旨	27
2	調査研究の実施方法	27
3	主な分析結果	27
4	平成 15・16・17 年度指定校一覧	43

# I 研究指定校を通じた幼稚園教育要領の実現状況の把握について

全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業（幼稚園）報告

## 1 調査研究の趣旨

幼稚園教育要領のねらいの実現状況等を把握するため、研究指定校における実践的な調査研究を通して、日常の保育の中で幼児が生活や遊びを進める姿から幼児の発達の実情を捉えるとともに、教育課程、指導内容、指導方法等の実際についてまとめながら教育課程の実施状況を捉え、今後の教育課程や指導方法の改善に資する。

## 2 調査研究の実施方法

### (1) 研究指定校の委嘱

国立教育政策研究所（以下「研究所」）は、全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業研究指定校（以下「研究指定校」）を、都道府県教育委員会、都道府県私立学校担当部局及び附属学校を置く国立大学法人を通して募集があった国公立の小中学校から、研究計画書等をもとに選定し、委嘱を行った。

研究指定校数

幼稚園14園（学校名は別紙）

委嘱期間

平成15年度及び16年度の2年間

### (2) 研究指定校における調査研究の進め方

研究指定校においては、調査担当者（主として学級担任と園長）が、調査指導員とともに、5歳対象児を中心に日常の保育の中で幼児が生活や遊びを進める姿から幼児の発達の実情を捉える観察調査を実施し（日々の記録、1週間のまとめの作成とともに、年2回の観察調査を実施）、幼稚園教育要領に定めるねらいの実現状況を把握した。

### (3) 調査研究結果の分析

研究指定校から提出された、実現状況の報告をもとに、研究所において、学識経験者及び実際に調査に従事した調査指導員から構成する「企画委員会」が分析を行った。

## 3 主な分析結果

研究指定校における観察の分析結果は、次のとおり。

## 幼稚園

### < 調査結果のポイント >

指定校の調査結果からは、幼稚園教育要領のねらいの実現状況において、各領域とも、おおむね実現している状況が示されている。

領域「健康」では、戸外で体を十分に動かして繰り返し挑戦する、友達とアイデアを出し合って活動したりするなど、自己の存在感をもって行動する姿がみられる。基本的な生活習慣の習得は、危険を避けて安全に行動したり、自分でできることは自分の力でやり遂げようとする姿がみられる。

領域「人間関係」では、友達や教師とかかわる中で自分の感情や意思を表現しつつ、他の人々と共に活動する楽しさや、思いやりの気持ちをもつようになってきている。集団とのかかわりの中で自己実現を図ることについては、トラブルを自分からはうまく解決できずにいる、注目を浴びると緊張して行動できなくなるなどの姿もまだみられている。

領域「環境」では、身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、予測や試しを行い、発見や気付きを遊びや生活の中に取り入れたりしている。自然とのかかわりに関しては、主に飼育栽培を通して動植物とかかわる中で、命あるものとかかわりを大切にしている姿がみられる。

領域「言葉」では、感じたことや考えたことを言葉で表現したり、教師や友達の話に関心をもって聞き、自らも話すことで伝え合ったり、日常生活に必要な言葉が分かり使えるようになるなど、人とかかわりの中での言葉の育ちがみられる。また、絵本や物語を喜んで聞いたりして、想像の世界を広げている。

領域「表現」では、イメージを豊かにもち自分なりに表現を工夫して楽しんだり、友達と発想や表現を共有したりして相談しながら表現活動をしている姿がみられる。また、美しいものや自然等に触れた時の心の動きを、素直に表現して友達と共有したり、様々な表現を出し合い高めていこうとしたりすることもみられる。

運動的な遊びに自らすすんで取り組まない、身近な環境にあまり興味・関心をもたない、はじめての体験なので自分は直接触れずに友達の様子を見ている等、遊びや生活とのかかわりが消極的な姿も一部にみられる。

## < 調査結果の概要 >

### 1. 領域ごとの実現状況

#### (1) 領域「健康」

自分の目標や課題をもって取り組む，体を十分に動かして繰り返し挑戦したり，友達と共に楽しいことに向かいアイデアを出し合って活動したりすることなど，自己の存在感をもって行動できていることから，健康な心と体の育ちがみられる。

特に幼稚園教育要領（平成10年告示）におけるねらい及び内容の改訂の要点（以下「改訂の要点」という）として示された，幼児の興味や関心が戸外に向き，しなやかな心と体の発達を促すことに関しては，他の幼児と共に運動したり，ときには競い合いながら戸外で体を動かす楽しさを感じたりして，幼児同士のかかわりを深めている。

しかし一方で，体を動かす遊びに進んで取り組まなかったり，身のこなしの柔らかさや多様さに欠けたりする報告もみられる。

また，基本的な生活習慣の習得については，教師や友達に言われて初めて気付いて行動することときには見受けられるものの，多くの幼児は生活に必要な行動を自ら行ったり，危険を避けて安全に行動したり，自分でできることは自分の力でやり遂げようとする姿がみられる。

これらの状況から，領域「健康」のねらいはおおむね実現している。

#### (2) 領域「人間関係」

幼稚園生活において，友達や教師とかかわる中で自分の感情や意思を表現しつつ，他の人々と共に活動する楽しさや，思いやりの気持ちをもつようになってきている。

また，友達と一緒に生活するためには守らなくてはいけないきまりやルールがあることもわかり，社会生活における望ましい習慣や態度を身に付けている。

特に改訂の要点として示された道徳性の芽生えを培うことについては，他者とのかかわりを深める中できまりや約束を守って行動する姿が数多く報告されている。これらの状況から領域「人間関係」のねらいはおおむね実現している。

しかし，改訂の方針として示された，集団とのかかわりの中で幼児の自己実現を図ることについては，友達とのトラブルを自分からはうまく解決ができずにいる，また学級全体の活動の中で注目を浴びると緊張して行動できなくなるなどの姿もまだみられている。

#### (3) 領域「環境」

身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり，発見を楽しんだり，試したり，今までの体験をもとに幼児なりに予測を立てたり，さらに発見や気付きを遊びや生活の中に取り入れたりしている。また，数量や文字に関しては，興味や関心のもち方などに個人差はあるものの，全体として興味や関心が高まり，遊びや生活のいろいろな場面で使っている。また，内容の取り扱いに示された自然とのかかわりを深めることに関しては，主に飼育栽培を通じた動植物とのかかわりや一連の活動が数多く報告され，動植物とともに生活する中で，命あるものとのかかわりを大切にしている姿がみられる。

これらの状況から，領域「環境」のねらいはおおむね実現している。

しかし，改訂の要点として新たに示された，生活の中で様々な物に触れながらその物の性質や仕組みに興味や関心をもつことに関しては，物とのかかわりを楽しむことやその性質や仕組みに気付いて使いこなすという内容の報告は少ない。

#### (4) 領域「言葉」

いろいろな場で感じたことや考えたことを言葉で表現したり，教師や友達の話に関心をもって聞き，自らも話すことで伝え合ったり，日常生活に必要な言葉が分かり，使えるようになるなど，人とのかかわりの中での言葉の育ちがみられる。また，絵本や物語を喜んで聞いたり，言葉のリズムを繰り返し楽しんだりして，想像の世界を広げている。

改訂の要点として示された文字に対する興味や関心については，文字に興味や関心を示し，文字の機能に気付き，遊びや生活の中で使うなどの姿がみられる。また，相手の言葉や話に関心をもち，注意深く聞いたり，相手の状況を読み取って自分の気持ちや考えを表現したりするなど，伝え合いのなかで言葉に対する感覚や表現力が身に付いている。

これらの状況から，領域「言葉」のねらいはおおむね実現している。しかし，読み聞かせの場面や学級全体で話を聞くときなどに注意を持続できない姿も一部にみられる。

#### (5) 領域「表現」

イメージを豊かにもち自分なりに表現を工夫して楽しんだり，友達と発想や表現を共有したりして相談しながら表現活動をしている姿から，感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする意欲をもち，その態度も身に付いてきているといえる。

特に改訂の要点として示された，表現しようとする意欲や，幼児らしい様々な表現を楽しむことに関しては，一人一人が豊かな感性や心情をもち，その幼児らしい表現をして楽しんでいる姿が多くみられている。

また，美しいものや自然等に触れた時の心の動きを，素直に表現して友達と共有したり，様々な表現を出し合い高めていこうとしたりすることもみられる。

これらの状況から，領域「表現」のねらいは，おおむね実現している。

しかし，他者と表現を伝え合う喜びが十分に味わえなかったり，周囲の状況を取り入れて豊かに表現することがまだ十分にはできない姿もときにはみられる。

### < 分析から見える主な課題 >

今回の調査からは、幼稚園教育要領（平成10年告示）のねらいの実現状況は、各領域とも、おおむね実現しているといえる結果が得られた。このことは、指定校において幼稚園教育要領の基本的考え方がおおむね理解され、幼稚園教育要領のねらいを実現しようとする取り組みがなされているといえる。今後一層の幼稚園教育の充実を目指すために、以下の課題を示す。

一部の幼児からは、自ら遊びに進んで取り組まない、身近な環境にあまり興味・関心をもたない、自分は直接触れずに友達の様子を見ている等、環境とのかかわりが消極的な姿もみられる。その背景の一つとして、幼児の家庭・地域社会における生活経験の不足によることが考えられる。このため、教師は幼児一人一人の実態に合わせてさらにきめ細かく応じていくことが必要であるとともに、幼稚園生活において豊かな体験が得られるような指導計画や環境の構成を工夫する必要がある。

幼稚園教育要領の基本方針の一つに、集団とのかかわりの中で幼児の自己実現を図ることが示され、各領域のねらい及び内容についてこの視点から見直しが図られた。このことにより、指定校において、幼児同士が集団の中でかかわりを深める姿が多く報告されている。しかし一方で、学級全体の活動では思うように自己表現できなかったり、教師や友達以外の人へのかかわりが消極的になったりするなど、集団の大きさやつながり、状況の変化により自己発揮しきれない姿もまだみられる。また、友達とのトラブルが起こるとうまく解決ができなかったり、自分本位になってしまったり、いったん守れた約束でも、周囲に友達や教師がいなくなると守れなくなったりして、他者と調和をとって行動することや自分の気持ちを抑えることがうまくできない姿もみられる。各領域のねらいや内容との相互関連を図り、幼児同士がかかわりを深め、育ち合うための指導を充実させる必要がある。

幼稚園教育要領では、第1章総則1幼稚園教育の基本において、幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成することが明示された。各指定校において、計画的に環境を構成することについては、指導計画においても明確に示され、物的・空間的環境の構成の工夫もみられてきた。しかし、一部の指定校では、実際の活動に表れてきた具体的な幼児の活動の姿からは、幼児がかかわる対象が限定されていたり、環境とのかかわり方に偏りがあったりすることもみられた。それには家庭や地域での幼児の生活経験が少ないなどの問題もあると考えられるが、環境の構成が固定していたり、教師が環境を狭くとらえていたりするため、幼児が物とのかかわりを楽しむことができないなど、環境の構成の在り方の問題もあると考えられる。環境を通して行う教育については、引き続きその在り方についての理解を深めていく視点をもつことが必要である。

#### 4 平成15・16年度全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業指定校

##### 【幼稚園】

学校法人山王学園山王幼稚園（秋田県）、学校法人中沢学園会津若葉幼稚園（福島県）、学校法人大恵会石川幼稚園（栃木県）、榛東村立南幼稚園（群馬県）、文京区立明化幼稚園（東京都）、東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎、学校法人安見学園板橋富士見幼稚園（東京都）、学校法人京急学園京急幼稚園（神奈川県）、名古屋市立猪高幼稚園（愛知県）、学校法人嵯峨学園嵯峨幼稚園（京都府）、広島市立矢野幼稚園（広島県）、北九州市立足原幼稚園（福岡県）、長崎大学教育学部附属幼稚園、学校法人中九州学園画図幼稚園（熊本県）

## Ⅱ 研究指定校を通じた児童生徒の学力の把握について

全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業（小学校・中学校）報告

## 1 調査研究の趣旨

学習指導要領の実現状況等を把握するため、研究指定校における実践的な調査研究を通して、ペーパーテストだけでは把握が困難な、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を含めた総合的な学力を把握し、今後の教育課程や指導方法の改善に資する。

## 2 調査研究の実施方法

### (1) 研究指定校の委嘱

国立教育政策研究所（以下「研究所」）は、全国かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業研究指定校（以下「研究指定校」）を、都道府県教育委員会、都道府県私立学校担当部局及び附属学校を置く国立大学法人を通して募集があった国公立の小中学校から、研究計画書等をもとに選定し、委嘱を行った。

#### 研究指定校数

小学校34校、中学校25校（各教科それぞれ5校程度 学校名は別紙）

#### 委嘱期間

平成15年度及び16年度の2年間

### (2) 研究指定校における調査研究の進め方

#### 評価規準の作成，評価方法の設定

研究指定校においては、研究所が平成14年2月に作成した「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料」における「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に、自校の指導計画に基づき、「単元（題材）の評価規準」や「学習活動における具体的な評価規準」を作成した。

また、学習活動の特質や評価の場面に応じ、児童生徒の学習の実現状況を的確に評価できる評価方法を設定した。

#### 調査研究の実施

研究指定校においては、単元（題材）において作成した評価規準及び設定した評価方法に基づき、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)及び「努力を要する」状況(C)のいずれかを評価し、児童生徒の実現状況を把握した。

### (3) 調査研究結果の分析

研究指定校から提出された、評価規準の柱ごとに実現状況の報告をもとに、研究所において、大学教授、教育委員会指導主事、教員等から構成する「企画委員会」が分析を行った。

## 3 主な分析結果

各教科の主な分析結果は、次のとおり。

## 小学校

### (国語)

「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の3観点を中心に、「国語への関心・意欲・態度」、「言語についての知識・理解・技能」を合わせて考察しているが、7校において、年間を通してどの単元ともに「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合は、約90%であった。

#### 「話す・聞く能力」

年間の変化をみると、「話す・聞く能力」は高まっているのに、「国語への関心・意欲・態度」が下がっている学校がみられた。

学期が進行するのに伴って「話す・聞く能力」、「言語についての知識・理解・技能」が徐々に下がっている傾向がみられた。理由を解明するとともに、「話す・聞く能力」の向上を図る工夫が必要であると考えられる。

「C 努力を要すると判断される状況」の割合が年間を通して固定している学校も見受けられた。

#### 「書く能力」

実現状況が時期によって上下するなど不安定である学校が認められた。

指定校の中には、学習指導要領(平成10年告示)の目標と内容を踏まえて、第1単元から最終単元まで系統的に高めていくよう評価規準の設定を工夫している学校がある一方、「書くこと」の系統性を踏まえずに、抽象的で多くのことを網羅している評価規準を設定している学校もみられた。

#### 「読む能力」

年間を通して「A 十分満足できる状況」、「B おおむね満足できる状況」、「C 努力を要すると判断される状況」の実現状況がそれぞれ一定の割合で推移している傾向がみられた。

年間を通して、同じ評価規準が適用され、指導と評価の一体化が不十分になっている状況がみられた。

### (社会)

「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)が、90%以上、85%以上、80%以上の3段階を指標として調査結果を考察すると、第3学年及び第4学年の内容(3)(4)(5)(6)、第5学年の内容(3)、第6学年の内容(1)のア・クと内容(3)がおおむね90%以上であった。また、おおむね85%以上は、第3学年及び第4学年の内容(2)、第5学年の内容(1)(2)、第6学年の内容(1)のウ・エ・カと内容(2)、おおむね80%以上は、第3学年及び第4学年の内容(1)、第5学年の内容(4)、第6学年の内容(1)のイ・オ・キであった。

[第3学年及び第4学年]

AとBを合わせた割合は、全体的には85%以上であった。「(1) 身近な地域や市の様子」については、AとBを合わせた割合は、80%以上であり、他の内容に比べ若干低い傾向がみられた。なお、この内容については、地域の様子の観察、調査にかかわる学習に比べて、その結果を地図などに表し特色を読み取る学習がやや手薄になっている事例が複数校でみられた。

[ 第5学年 ]

内容(4)を除いて、AとBを合わせた割合は、おおむね90%以上と、他の学年よりも若干高い傾向がみられた。「(4) 我が国の国土の様子」について、AとBを合わせた割合は、4校中2校が90%以上であったが、他の2校でおおむね80%以上であり、他の内容に比べて実現状況にばらつきがみられた。なお、この内容については、児童が疑問をもって追究する活動を十分行えなかった、プリント学習を繰り返して行ったが定着しなかったなどの報告がみられた。

[ 第6学年 ]

AとBを合わせた割合は、全体的にはおおむね90%以上であった。「(1) 我が国の歴史」について、AとBを合わせた割合は、全体としてはおおむね85%以上であったが、さらに項目別にみると、「イ 大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営，貴族の政治」「オ 江戸幕府の始まり，大名行列，鎖国，歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学」「キ 大日本帝国憲法の発布，日清・日露戦争，条約改正，科学の発展など」は80%以上と若干低い傾向がみられた。「(3) 世界の中の日本の役割」については、全体としてはおおむね90%以上であり、第6学年の他の内容に比べ若干高い傾向がみられた。なお、「(1) 我が国の歴史」イ，オ，キについては、「思考・判断」と「知識・理解」の観点において課題がみられた。

(算数)

[ 数と計算 ]

指定校のすべての学年・観点で、「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)が80%以上の学校は、11校中9校であった。数と計算の意味理解のために、作業的・体験的な算数的活動を取り入れたり、図や絵を使ったり、児童に説明させたりする工夫が見られた。また、表現・処理においては、少人数指導や繰り返し指導を工夫して定着を図っているとの報告があった。

[ 量と測定 ]

指定校のすべての学年・観点で、AとBを合わせた割合が80%以上の学校は、11校中9校であった。量と測定の意味理解のために、具体的な量の測定や比較の活動の工夫が多く多くの学校で取り入れられている。単位の関係や単位の換算、円の面積、角の大きさを自ら考えることについては、理解が困難という報告が一部あった。

[ 数量関係 ]

指定校のすべての学年・観点で、AとBを合わせた割合が80%以上の学校は、11校中8校であった。関心・意欲・態度及び数学的な考え方の育成のために、身の回

りにある資料を活用し表やグラフに表して事象を関係的にとらえる指導が見られた。

(理科)

[ A 生物とその環境 ]

指定校のすべての学年・観点で、「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)が90%以上であった。すべての学年において、「自然事象への関心・意欲・態度」の観点で、AとBを合わせた割合が95%以上であり、生物とその環境に対する関心を高める取組が定着してきていると考えられる。

[ B 物質とエネルギー ]

6校中5校において、すべての学年・観点で、AとBを合わせた割合が90%以上であった。一方、実験結果の整理やその処理が十分でなかったり、結果と結論を混同して表現したりしている状況がみられた。

[ C 地球と宇宙 ]

指定校のすべての学年・観点で、AとBを合わせた割合が85%以上であった。

すべての区分において、学習した内容の日常生活との関連が十分ではない状況がみられた。

(生活)

内容別、観点別のどちらにおいても高い実現状況を示している。特に、関心・意欲・態度の育成が図られており、子どもが自ら対象とかかわり進んで学習や生活をしようとしていることがわかる。

表現力の育成に力点が置かれ過ぎ、思考力の高まりに向けた指導が弱いこと、気付きの質を高める指導の工夫が求められることなどが課題としてあげられる。

内容別に見ると、「動植物の飼育・栽培」、「自然や物を使った遊び」の時間数が多く、充実した実践が行われている。また、「地域と生活」、「季節の変化と生活」などは各学年の中心的な学習活動として位置づけられている。

(音楽)

[ 歌唱 ]

指定校のすべての学年・観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)は、85%以上であった。6年間を通して、音楽に対する児童の関心・意欲を大切にして取り組んだ成果がみられる。また、「自然で無理のない声」の趣旨が学習指導に十分生かされていない状況が一部に見受けられる。

#### [ 器楽 ]

指定校のすべての学年・観点でAとBを合わせた割合は、86%以上であった。第3学年においては、表現の技能の習得度合いに差がみられるものの、学習指導の工夫によって、学年が進むにしたがって実現状況に向上がみられる。

#### [ 創作 ]

指定校のすべての学年・観点でAとBを合わせた割合は、89%以上であった。音楽の素材としての音への感覚を身に付け、音楽をつくる楽しさを児童が感じ取りながら学んでいる学習状況が見受けられる。一方、音楽をつくる能力を既成の楽曲の再表現活動で生かす取組への理解が十分ではなかった。

#### [ 鑑賞 ]

指定校のすべての学年・観点でAとBを合わせた割合は、91%以上であった。6年間を通して、聴くポイント（学習指導要領（平成10年告示）の内容や楽曲の特徴に即したものを）を明示することによって、集中して音楽を聴いたり、楽曲に対するイメージを膨らませたりして、児童の「感じ取る力」（感受）を深める指導が成果を上げたようである。

授業において、鑑賞曲を聴く活動だけでなく、児童同士が互いの演奏を聴き合う活動を多く取り入れることによって、音楽を聴くことを習慣化・生活化する学習指導が効果を上げたという報告もあった。

#### （ 図画工作 ）

##### [ 楽しい造形活動をする（造形遊び） ]

8校中7校において、すべての学年・観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合（以下、「AとBを合わせた割合」という）が82%以上で、すべての学年・観点で最も実現状況が高い内容項目である。特に児童の高い「造形への関心・意欲・態度」に支えられて、造形活動が展開されていることが分かる。

##### [ 絵や立体、つくりたいものをつくる ]

指定校すべての学年・観点でAとBを合わせた割合が82%以上を示しており、すべての学年・観点で実現状況は高い。特に材料を手がけることから始めるなど「楽しい造形活動をする（造形遊び）」の考え方を取り入れた題材において実現状況が高くなる傾向がある。一方、固定的な手順どおりにつくらせたり、特定の表現方法に重点をおいて指導したりする場合、実現状況が低くなる。

##### [ 作品などを関心をもって見る ]

8校中7校において、すべての学年・観点で、AとBを合わせた割合が88%以上であり、一部に学習方法や評価規準に課題が残るものの、すべての学年・観点で実現状況は高い。今後指導と評価の工夫によって、一層作品などを関心をもって見る学習活動が充実する可能性がうかがえる。

## （家庭）

題材構成や教材の工夫，指導体制や指導方法の工夫など実践的・体験的な学習を充実させる工夫がなされたことにより，全ての内容・観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」をあわせた割合が95%以上であった。

内容「(3) 生活に役立つ物の製作」や「(5) 簡単な調理」において製作や調理などの実践的・体験的な学習を行う場合は，チーム・ティーチングによる指導をはじめ個に応じた指導を工夫したことにより，基礎的な技能や知識が高まったと報告されている。

観点別では，自分の生活と関連付けて実践化を図る工夫をしたことが児童の意欲を高めるのに効果的であること，生活を創意工夫する能力を育成するためには，児童にとって必要感のある題材や課題を設定することが効果的であったことが報告されている。

学習した知識や技能を生活に十分生かせないという課題があり，実践的な態度を育成するためには，生活に結び付いた題材の検討や個に応じた指導の工夫など実践的・体験的な学習の充実を図ることが大切である。

## （体育）

### [ 運動領域 ]

すべての内容領域・観点において，「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合（以下、「AとBを合わせた割合」という）が80%以上であり，実現状況が著しく低いものはみられなかった。学習指導要領（平成10年告示）で新しく位置付けられた「体ほぐしの運動」などについても，同様に高い実現状況であった。

観点別にみると，「運動への関心・意欲・態度」，「運動についての思考・判断」に比べ，「運動の技能」のばらつきが大きいものとなっている。

### [ 保健領域 ]

すべての内容領域・観点において，AとBを合わせた割合が90%以上であり，実現状況が著しく低いものはみられなかった。学習指導要領で新しく位置付けられた学習内容も含めて高い実現状況であった。

観点別にみると，「健康・安全への関心・意欲・態度」，「健康・安全についての思考・判断」，「健康・安全についての知識・理解」のいずれも高い実現状況であった。その中で「健康・安全についての思考・判断」と「健康・安全についての知識・理解」は，「健康・安全への関心・意欲・態度」に比べて各内容とも「A 十分満足できる状況」の割合がやや低かった。

## 中学校

(国語)

「話す・聞く能力」

「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)は、7校中6校においてすべての学年で80%以上であった。Aの比率が高い学校もみられたが、Aの状況の具体的な姿の設定等が課題と考えられる。

「話し合い」については、観察、ワークシート、聞き取ったメモ、話し合いのためのメモの内容を重視して評価している場合が多い。

「書く能力」

「C 努力を要すると判断される状況」の生徒が10%以上いる学校(学年)が、7校中5校であった。書くことを苦手とする生徒を固定化させないよう、書く内容を焦点化させる段階における指導の工夫が見られた。

「読む能力」

AとBを合わせた割合は、7校中6校においてすべての学年で80%以上であった。

古典を教材として扱う場合、文語における言葉のきまり等の指導を、「読むこと」の指導と結びつけた、効果的な取組も見られた。

書写については、作品中心の評価をしている傾向がみられ、他の指導と同様、育成する言語能力を明確にするとともに、十分な指導時間を確保することも課題である。

評価の観点別では、「国語への関心・意欲・態度」については、「漢和辞典を使って部首を調べようとしている」、「文章に線を引きながら聞いたり、自分なりの疑問や印象をメモしている」などの様々な評価の工夫が見られた。

(社会)

[地理的分野]

「(1) 世界と日本の地域構成」では、緯度・経度や時差の計算、日本の略地図の描画に関する学習成果が十分でなく、課題がみられた。

「(2) 地域の規模に応じた調査」の各項目では、生徒の意欲的な取組を促す様々な指導の工夫により、特に「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点で高い実現状況がみられた。

評価の観点別では、地理的事象から課題を見いだしたり資料を多面的・多角的に考察する時間や指導の手だてが十分でない状況があり、内容全体を通して、「社会的な思考・判断」の観点で課題がみられた。

## [ 歴史的分野 ]

「(5) 近現代の日本と世界」では、指導内容が焦点化されず網羅的になったり、示す学習課題が難解になったりする場合においては、学習内容の理解・定着などの面で課題がみられた。

「資料活用の技能・表現」では、自分の言葉で説明や記述をする力に課題がみられたが、継続的・計画的な指導を積み重ねた場合などに、実現状況の高まりがみられた。

「社会的な思考・判断」では、自ら考えようとする姿勢の面で課題がみられたが、学習課題を工夫して多面的・多角的に考察させる指導を積み重ねた場合などに、実現状況の高まりがみられた。

## [ 公民的分野 ]

法や政治の見方や考え方を深める「(3) 現代の民主政治とこれからの社会」の「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」や「イ 民主政治と政治参加」では学習の成果が十分ではない状況がみられた。特に、「社会的事象についての知識・理解」の観点において、権利についての理解が十分でないなど、政治的分野の学習において習得すべき概念の把握ができないという課題がみられた。

身近な題材を用いたり、体験的な活動を取り入れたりして指導をした場合や、新聞記事を用いて指導している内容については実現状況が高くなる傾向がみられた。

様々な資料から情報を取り出し、活用して自分の考えを表現する学習の成果が十分でなく、「資料活用の技能・表現」の観点において課題がみられた。

適切な授業時間を配当し、課題追究的な学習や調べ発表する学習などを授業に取り入れた指定校では高い学習成果を得ることができたが、十分に時間をかけて指導することができなかった場合には高い学習成果がみられず、年間指導計画作成上の課題がみられた。

## ( 数学 )

### [ 数と式 ]

「数学的な見方や考え方」において、「C 努力を要すると判断される状況」の割合が高い傾向がみられ、特に、第3学年の「平方根」では、7校中5校において30%以上であった。

「数学的な表現・処理」において、第1学年の「正の数・負の数」から「文字の式」に学習が進むと、全ての学校において「C 努力を要すると判断される状況」の割合が高くなっていった。

### [ 図形 ]

第3学年の「相似な図形」と「三平方の定理」の単元について、5校において「C 努力を要すると判断される状況」の割合が全体の30%を超えていた。証明の練習や学習したことを現実の場面に活用する学習が不十分なことが課題であった。

### [ 数量関係 ]

「数学的な見方や考え方」において、すべての学年・単元においても「C 努力を要すると判断される状況」の割合が30%と高く、特に第2学年の「一次関数」と「確率」では、80%程度の学校も見られた。成果をあげている学校では、身の回りの具体的な事象について関数的に見るための操作活動を適宜取り入れるなど工夫し、生徒の学習への意欲付けを図る取組も見られた。

「数量，図形などについての知識・理解」について、多くの学校がペーパーテストをもとに評価を行っているが、問題の難易度にばらつきが大きく、「C 努力を要すると判断される状況」の割合が高い学校があった。

評価の観点でみると、「数学への関心・意欲・態度」については、「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合（以下、「AとBを合わせた割合」という）はおおむね80%以上であった。「数学的な見方や考え方」は全ての学年・単元においての割合が30%程度と他の観点に比べて高く、60%や70%の学校もみられた。「数学的な表現・処理」については、AとBを合わせた割合は3学年を通して70～80%であった。「数量，図形などについての知識・理解」については、AとBを合わせた割合は3学年を通して80%以上であった。

#### （理科）

多くの内容項目において、4観点ともに高い実現状況になっている。

##### [ 第1分野 ]

「電流とその利用」及び「化学変化と原子，分子」の各観点の実現状況が他の単元と比べると、全体的にやや低い傾向を示している。「電流とその利用」では、目で見ることができない電流や磁界という事象を学習の対象としていること、実験結果をグラフ化し法則性を見いだすこと及び計算などの数理的処理が必要とされることが要因として報告されていた。「化学変化と原子，分子」では、同様の要因に加え、モデル化することや化学反応式として表すこと、結果を考察して自分の考えを導き出すことが要因として挙げられた。

問題解決的な学習は多くの指定校で実践がみられるが、「科学的な思考」の実現状況には課題がみられる。結果を出すことに終始し、結果から結論を導き出したり、それを日常的に応用したりするまで至っていないことが考えられる。

##### [ 第2分野 ]

身近な自然を扱った学習が十分に行われていない状況である。そのため、自然を総合的にみたり、自然と人間のかかわり方を踏まえた環境保全に至っていない。また、具体的に行動をとるような学習にまで至っていない。

学習指導要領（平成10年告示）において学習時期が第3学年となった「地球と宇宙」については、すべての観点で高い実現状況を示した。第1学年の「大地と変化」については、「科学的な思考」及び「実験・観察の技能・表現」の実現状況がやや

低い傾向を示した。「天気とその変化」では、「自然現象についての関心・意欲・態度」の実現状況が低い。

(音楽)

[歌唱]

6校中5校において、すべての学年・評価の観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)が88%以上であったが、6校中3校で「音楽的な感受や表現の工夫」の実現状況に課題がみられた。

[器楽]

6校中5校において、すべての学年・評価の観点でAとBを合わせた割合が87%以上であった。しかしながら、「表現の技能」において実現状況に一部課題がみられた。和楽器の学習では、生徒が意欲的に取り組むなど、成果があがっているとの報告があった。

[創作]

6校中5校において、すべての学年・評価の観点でAとBを合わせた割合が88%以上であった。一方、授業の配当時数が少ない傾向がみられた。また、曲の構想を考えさせる学習過程を大切にした指導が効果的であるとの報告があった。

[鑑賞]

指定校のすべての学年・評価の観点でAとBを合わせた割合が88%以上であった。生徒が音楽に対する解釈や味わいなどを、音楽的な用語を用いて適切に表すことができる学習指導の工夫が効果的であるとの報告があった。

(美術)

[絵や彫刻などに表現する活動]

5校中4校において、すべての学年・観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合(以下、「AとBを合わせた割合」という)が85%以上であった。学習指導要領(平成10年告示)において重視されているスケッチの学習に関する「美術への関心・意欲・態度」については、第1学年で5校中3校においてAとBを合わせた割合が92%以上であり、生徒が関心や意欲をもって取り組んでいることがうかがえた。一方、第2学年及び第3学年における「発想や構想の能力」については、自分の印象や内面の世界を基に単純化や省略、強調したり、抽象化したりする学習において、発想や構想を高めるための手だてや場面が十分に設けられていないなどの課題がみられた。

[デザインや工芸などに表現する活動]

5校中4校において、すべての学年・観点でAとBを合わせた割合が85%以上であった。構成や装飾のデザインや、工芸に関する題材が多く、現行の学習指導要領で重視されているビジュアル・コミュニケーションの能力の育成をねらいとした題材への取組が十分

とは言えない。

[鑑賞の活動]

5校ともにすべての学年・観点でAとBを合わせた割合が82%以上であった。また、学習指導要領（平成10年告示）で重視されている日本の美術に関する鑑賞では、生徒の興味や関心、観察や思考が深まるように発問等を工夫した授業では「鑑賞の能力」のAとBを合わせた割合は90%であり、生徒の関心を高めながら鑑賞の視点を明確にして指導することにより成果が上がったという報告がみられた。

(保健体育)

[体育分野]

ほとんどの指定校のすべての内容領域・観点において、「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合（以下、「AとBを合わせた割合」という）が80%以上であった。

生徒が主体的に目標や課題を設定したり、練習方法を選んだりする授業が展開されたことが、各内容領域や各観点の実現状況に結びついたとの報告があった。

各観点の評価規準を作成するに当たり、特に「運動の技能」、「運動についての知識・理解」についての設定が難しいという課題がみられた。

[保健分野]

指定校のすべての内容領域・観点において、AとBを合わせた割合が80%以上であり、発問形式やグループによる話し合いを取り入れるなど、多様な指導の工夫が高い実現状況に結びついているとの報告があった。

「A 十分満足できる状況」の割合は、「健康・安全への関心・意欲・態度」が「健康・安全についての思考・判断」と「健康・安全についての知識・理解」に比べて高い傾向であった。「健康・安全についての思考・判断」については、他の観点に比べて、全体として低い実現状況にあり、その見取りの難しさも報告された。

(技術・家庭)

[技術分野]

題材や教材等を工夫したことにより、多くの項目・観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」をあわせた割合（以下、AとBを合わせた割合」という）が90%以上であった。

内容「A 技術とものづくり」においては、技能を習得させるための実習時間の確保や、目的をもって計画したり、製作物を考えたりさせるための時間の確保が効果的と報告されている。

内容「B 情報とコンピュータ」においては、中学校入学時におけるコンピュータの活用経験の差に応じた指導が効果的であると報告されている。

観点別では、生徒の意欲を持続させるためには、実生活と結びつけた学習課題が

効果的であること，工夫し創造する能力を育成するためには，生徒一人一人の新たな発想を引き出す指導が大切であることが報告されている。

#### [ 家庭分野 ]

題材構成や主体的な学習を促す工夫をしたことにより，多くの内容・観点で A と B を合わせた割合が90%以上であった。

内容「A 生活の自立と衣食住」においては，技能の習得のための実習時間の確保や，身近な生活に結びつけて学習したり，段階的に繰り返し学習したりする必要性が報告されている。

内容「B 家族と家庭生活」においては，幼児の遊び道具の製作や保育体験学習，ロールプレイングなど，実践的・体験的な学習を工夫することが効果的と報告されている。

観点別では，明確な課題をもち主体的に学習に取り組むことにより生徒の意欲が高まったこと，生活を工夫し創造する能力を育成するためには，生徒が自分なりに考え工夫する時間や具体的な場面の設定，生徒の主体的な学習を促す工夫が効果的であったことが報告されている。

#### ( 外国語 )

全体的に見ると，概して実現状況は高く，ほとんどの領域や観点で「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」を合わせた割合（以下、「A と B を合わせた割合」という）が80%を越えていた。

#### [ 聞くこと ]

A と B を合わせた割合は，第 1，2 学年において 7 校すべてで80%以上であり，第 3 学年では，5 校が80%以上，残る 2 校も70%以上であった。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」において，A と B を合わせた割合（3年間の平均）が，7 校中 6 校で90%以上であったのに対し，「理解の能力」では，90%以上の学校は 2 校のみであった。

#### [ 話すこと ]

A と B を合わせた割合は，第 1 学年において，7 校すべてで80%以上であり，第 2，3 学年では，6 校が80%以上，残る 3 校も60%以上であった。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」において，A と B を合わせた割合（3年間の平均）が，7 校中 5 校で90%以上であった。「表現の能力」は，90%以上の学校は 3 校，「言語や文化についての知識・理解」は 4 校であった。

#### [ 読むこと ]

A と B を合わせた割合は，第 1 学年において，7 校中 4 校で80%以上であり，残る 3 校も60%以上であった。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」において，A と B を合わせた割合（3年間の平均）が，7 校中 5 校で90%以上であったが，「理解の能力」では90%以上の学校が 2 校のみであった。

#### [ 書くこと ]

AとBを合わせた割合は、第1学年において7校中5校が80%以上であり、第2、3学年で80%以上であり、残る2校も60%以上であった。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」において、AとBを合わせた割合（3年間の平均）が、7校中4校で90%以上であったが、「表現の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」では、90%以上は1校のみであった。

「聞くこと」、「話すこと」という音声にかかわる技能は、学年が進んでもAとBを合わせた割合に変化がないか、もしくは、進むにつれて低下する傾向がみられた。しかし「読むこと」、「書くこと」では、学年が進むにつれてAとBを合わせた割合が向上する学校もあった。

各学年における4領域ごとのAとBを合わせた割合を比較すると、学年が進むにつれて差が生じ、「聞くこと」及び「話すこと」に比較して、「読むこと」及び「書くこと」が低下する学校が増える状況であった。

#### 4 平成15・16年度全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業指定校

##### 【小学校】(教科別)

- (国語) 雄武町立栄丘小学校(北海道), 秋田大学教育文化学部附属小学校(平成16年度), 銚子市立若宮小学校(千葉県), 豊島区立豊成小学校(東京都)(平成16年度), 文京区立指ヶ谷小学校(東京都)(平成16年度), 稲沢市立下津小学校(愛知県)(平成16年度), ノートルダム学院小学校(京都府), 御所市立葛小学校(奈良県), 南国市立後免野田小学校(高知県)(平成16年度)
- (社会) 雄物川町立南小学校(秋田県), 藤岡町立御作小学校(愛知県), 大牟田市立倉永小学校(福岡県), 清武町立加納小学校(宮崎県)
- (算数) 水沢市立水沢小学校(岩手県)(平成16年度), 伊勢崎市立宮郷第二小学校(群馬県), 吉井町立南陽台小学校(群馬県)(平成16年度), 川越市立月越小学校(埼玉県), 横浜市豊岡小学校(神奈川県)(平成16年度), 京都市立松陽小学校(京都府), ノートルダム学院小学校(京都府), 松原市立中央小学校(大阪府)(平成16年度), 兵庫教育大学学校教育学部附属小学校(平成16年度), 尾道市立長江小学校(広島県), 庄原市立山内小学校(広島県), 藍住町立藍住南小学校(徳島県)
- (理科) 黒羽町立黒羽小学校(栃木県), 千葉市立都賀小学校(千葉県), ノートルダム学院小学校(京都府), 佐用町立江川小学校(兵庫県), 詫間町立詫間小学校(香川県), 鹿本町立稲田小学校(熊本県), 阿久根市立阿久根小学校(鹿児島県)(平成16年度)
- (生活) 小出町立小出小学校(新潟県), 能登島町立能登島小学校(石川県), 信楽町立雲井小学校(滋賀県), 鳥取市立湖山西小学校(鳥取県), 大分市立宗方小学校(大分県)
- (音楽) 仙台市立南材木町小学校(宮城県), 三国町立加戸小学校(福井県), 静岡市立清水辻小学校(静岡県), 下松市立久保小学校(山口県), 宇美町立原田小学校(福岡県)
- (図画工作) 朝日村立朝日小学校(山形県), 木曾福島町立福島小学校(長野県), 枚方市立平野小学校(大阪府), 福山市立蔵王小学校(広島県)(平成16年度), 西予市立大和田小学校(愛媛県)(平成16年度), 宇美町立原田小学校(福岡県), 長崎市立浪平小学校(長崎県), 国頭村立辺土名小学校(沖縄県)
- (家庭) 青森市立造道小学校(青森県), 牛久市立向台小学校(茨城県), 岐阜市立長良西小学校(岐阜県), 出雲市立高松小学校(島根県), 山内町立山内西小学校(佐賀県)
- (体育) 福島市立余目小学校(福島県), 川越市立月越小学校(埼玉県), 立山町立立山中央小学校(富山県)(平成16年度), 伊勢市立神社小学校(三重県), 岡山市立箕島小学校(岡山県), 長崎市立北陽小学校(長崎県)

##### 【中学校】(教科別)

- (国語) 盛岡市立上田中学校(岩手県)(平成16年度), 巨理町立吉田中学校(宮城県)(平成16年度), 南河内町立南河内中学校(栃木県), 館山市立第二中学校(千葉県)(平成16年度), 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校(平成16年度), 安濃町立東観中学校(三重県), 広島市立段原中学校(広島県)
- (社会) 千歳市立真町中学校(北海道), 巨理町立吉田中学校(宮城県)(平成16年度), 館山市立第二中学校(千葉県)(平成16年度), 世田谷区立船橋中学校(東京都)(平成16年度), 鯖江市立中央中学校(福井県), 八代市立第五中学校(熊本県), 都城市立姫城中学校(宮崎県)
- (数学) 東金市立東金中学校(千葉県)(平成16年度), 世田谷区立船橋中学校(東京都)(平成16年度), 砺波市立出町中学校(富山県)(平成16年度), 精華町立精華南中学校(京都府), 福山市立幸千中学校(広島県)(平成16年度), 今治市立立花中学校(愛媛県)(平成16年度), 八代市立第五中学校(熊本県)
- (理科) 大館市立東中学校(秋田県), 桐生市立東中学校(群馬県)(平成16年度), 上田市立第一中学校(長野県), 西脇市立西脇南中学校(兵庫県), 鳴門市立第一中学校(徳島県)(平成16年度), 久留米市立高牟礼中学校(福岡県)
- (音楽) 盛岡市立上田中学校(岩手県)(平成16年度), 南河内町立南河内中学校(栃木県), 高岡市立南星中学校(富山県)(平成16年度), 精華町立精華南中学校(京都府), 西脇市立西脇南中学校(兵庫県), 島根大学教育学部附属中学校
- (美術) 千歳市立真町中学校(北海道), 東金市立東金中学校(千葉県)(平成16年度), 上田市立第一中学校(長野県), 函南町立函南中学校(静岡県), 松山市立南第二中学校(愛媛県)(平成16年度)
- (技術・家庭) 相模原市立相原中学校(神奈川県), 上越教育大学附属中学校, 西会津町立西会津中学校(福島県), 安濃町立東観中学校(三重県), 鳴門市第一中学校(徳島県)(平成16年度), 島根大学教育学部附属中学校, 久留米市立高牟礼中学校(福岡県), 八代市立第五中学校(熊本県)
- (保健体育) 大館市立東中学校(秋田県), 鯖江市立中央中学校(福井県), 島根大学教育学部附属中学校, 広島市立段原中学校(広島県)
- (外国語) 西会津町立西会津中学校(福島県), 総和町立総和北中学校(茨城県), 桐生市立東中学校(群馬県)(平成16年度), 横須賀市立大楠中学校(神奈川県)(平成16年度), 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校(平成16年度), 函南町立函南中学校(静岡県), 福山市立幸千中学校(広島県)(平成16年度), 島根大学教育学部附属中学校, 都城市立姫城中学校(宮崎県)

一部の学校名については、文字コードの関係上字体が異なっている場合があります。

### Ⅲ 研究指定校を通じた生徒の学力の把握について

全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業（高等学校）報告

## 1 調査研究の趣旨

学習指導要領の実現状況等を把握するため、研究指定校における実践的な調査研究を通して、ペーパーテストだけでは把握が困難な、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を含めた総合的な学力を把握し、今後の教育課程や指導方法の改善に資する。

## 2 調査研究の実施方法

### (1) 研究指定校の委嘱

国立教育政策研究所（以下「研究所」）は、全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定事業研究指定校（以下「研究指定校」）を、都道府県教育委員会、都道府県私立学校担当部局及び附属学校を置く国立大学法人を通して募集があった国公立の小中学校から、研究計画書等をもとに選定し、委嘱を行った。

#### 研究指定校数

高等学校62校（各教科それぞれ3校程度 学校名は別紙）

#### 委嘱期間

平成15年度から17年度の3年間

### (2) 研究指定校における調査研究の進め方

#### 評価規準の作成，評価方法の設定

研究指定校においては、研究所が平成15年3月に作成した「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料」における「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に、学校が地域や生徒の実態に即して設定した目標や内容に照らし、自校の指導計画に基づき、「単元（題材）の評価規準」や「学習活動における具体的な評価規準」を作成した。

また、学習活動の特質や評価の場面に応じ、生徒の学習の実現状況を的確に評価できる評価方法を設定した。

#### 調査研究の実施

研究指定校においては、単元（題材）において作成した評価規準及び設定した評価方法に基づき、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)及び「努力を要する」状況(C)のいずれかを評価し、生徒の実現状況を把握した。

### (3) 調査研究結果の分析

研究指定校から提出された、評価規準の柱ごとに実現状況の報告をもとに、研究所において、大学教授、教育委員会指導主事、教員等から構成する「企画委員会」が分析を行った。

## 3 主な分析結果

各教科における必修科目（職業に関する教科については、原則必修科目のうち基礎的な科目）の主な取組と実現状況の例は、次のとおり。

## 高等学校

### －普通教科－

(国語)

[国語表現]

評価規準ごとに実現状況をみると、すべての観点において「B おおむね満足できると判断される状況」以上を実現している生徒が多いが、指導事項の工「様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること」については、「書く能力」の面で、「C 努力を要すると判断される状況」の生徒が他の指導事項に比べて多い。

各単元や各時間の評価規準を設定することを通して、評価規準は学習指導要領の指導事項を具体化する(例えば、指導事項の「論理的」や「吟味」などを具体化する)ことによって設定できることが理解され始めている。

教材として、生徒に身近な題材や、実用的な題材を取り上げるなど、学習意欲を高める工夫がみられる。「関心・意欲・態度」についても、指導計画に目標として明確に位置付けて指導し、評価規準に基づきその実現状況を評価するという考え方が定着してきている。

[国語総合]

評価規準ごとに実現状況をみると、すべての観点において「B おおむね満足できると判断される状況」以上を実現している生徒が多い。「C 努力を要すると判断される状況」の生徒への手立ても適切に行われ、評価規準を設定した効果が現れている。

目標に準拠した評価を観点別に行うことによって、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の指導が、学習指導要領(平成11年告示)に示された指導時数の目安に沿って適切に行われるようになってきている。ただ、指導事項ごとにみると、指導時数に偏りもみられる。

毎時間ごとの具体的な評価規準を明確にしたり、評価の方法を工夫したりするなど、授業者ごとの評価のプレをなくす工夫がみられる。学習目標を生徒・教師がともに共有できる年間計画を作成している学校もある。

評価の方法としては、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)-評価規準、評価方法等の研究開発(報告)-」の事例に掲げた「行動の観察」と「記述の確認」が中心となっている。

評価についての考え方は改善されつつあるが、「定期テストによる評価はやりやすかった」というように、「読むこと」(読む能力)や「言語事項」(知識・理解)の領域において、今なお、ペーパーテストを中心に評価する傾向もみられる。

(地理歴史)

[世界史A]

「諸地域世界と交流圏」では、各地域を概観するため、概略地図を描き、各国の

位置関係を把握したり，細部には深入りせず，地域の特質となっている宗教などを取り上げたことにより，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現・技能」「知識・理解」の4観点とも実現状況は高い傾向がみられた。

「現代の世界と日本」では，「二つの世界戦争と平和」は4観点ともに実現状況が高い傾向がみられたが，「米ソ冷戦とアジアアフリカ諸国」や「地球社会の歩みと日本」「地域紛争と国際社会」「科学技術と現代文明」は，4観点とも実現状況が低い傾向がみられた。

#### [ 世界史 B ]

「世界史への扉」では，最初に教師がテーマを設定して指導した後、生徒がテーマを設定して探究する指導過程を展開したことにより、生徒が作業のイメージをつかみやすく，「関心・意欲・態度」の実現状況に高い傾向がみられた。[ 世界史 B ]

「地球世界の形成」では，他科目との関連も重視しながら指導したことにより，「関心・意欲・態度」「知識・理解」の2観点の実現状況に高い傾向がみられた。また，レポートにまとめたり発表したりする指導を行ったことにより，「技能・表現」の観点で実現状況に高い傾向がみられた。

#### [ 日本史 A ][ 日本史 B ]

「歴史と生活」では，「衣食住の変化」の項目について生徒が自ら主題を設定し，調査した結果の多角的な考察を通して，自分の言葉でレポートをまとめる学習活動を行うなど，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の実現状況に高い傾向がみられた。[ 日本史 A ]

「近代日本の形成と19世紀の世界」では，新聞などを題材に現在と関連付けて学習することにより，「関心・意欲・態度」に高い実現状況がみられた。一方で，明治政府の諸改革や産業構造の変化を，国際情勢と関連付けて考察する「思考・判断」の実現状況に課題がある生徒がみられた。[ 日本史 A ]

「原始・古代の社会・文化と東アジア」では，グループによる課題研究を通して，資料を収集する方法や論理的な思考方法を学び，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の実現状況に高い傾向がみられた。[ 日本史 B ]

「近代日本の形成とアジア」「両世界大戦期の日本と世界」では，授業プリントや個人による課題レポートなどにおいて自分の意見や疑問点を論述する学習活動を行ったが，「関心・意欲・態度」「思考・判断」の実現状況に課題がある生徒がみられた。[ 日本史 B ]

#### [ 地理 A ][ 地理 B ]

「球面上の世界と地域構成」では，地球儀を使って方位や角度を測る作業的な学習を取り入れることにより，大圏コースと等角コースの違いを単なる用語理解ではなく実感することができ，生徒の「関心・意欲・態度」の実現状況が高まる状況がみられた。[ 地理 A ]

「諸地域の生活・文化と環境」では，世界の自然環境を大観してから諸地域の生活・文化を学ぶこととし，単に異文化の特色の理解にとどまらず，例えば気候と産業，地形と鉱産資源の産出地との関連などを考えさせることで，地理的な見方や考え方を身に付けさせることができた。[ 地理 A ]

「州・大陸規模の地域」では、ヨーロッパと東南アジアを比較する学習を通して、それぞれの地域を地誌的に理解させるとともに、州・大陸規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法について身に付けさせることができたため、「知識・理解」の実現状況で高い傾向がみられた。[ 地理 B ]

「居住，都市問題の地域性」では、生徒の生活圏にある都市を取り上げたことで、都市問題を身近に感じさせ「関心・意欲・態度」の実現状況を高めることができたが、都市の成立や構造等に関する基礎的な理解が十分でなかったため、居住，都市問題の現れ方の地域差等についての理解を深めさせることができなかった。[ 地理 B ]

( 公民 )

[ 現代社会 ]

「現代に生きる私たちの課題」において「資料活用の技能・表現」の実現状況が高い傾向であった指定校では 生徒に課題追究で取り組んだことについて、これをまとめさせて発表させることに加えて、発表内容を生徒相互に評価させたり、追究の結果、生徒自身の認識がどのように変化したのかなどについても発表させている。具体的な例としては、ワークシートを活用して、提示された資料と合わせて、設問を工夫することによって思考の道筋をまとめるようにしている例や、グループ討議を導入して考察を深めている例がみられた。また、丁寧に取り組んだ成果が、年度の後半になって大項目「現代の社会と人間の在り方生き方」で成果が生かされたと思われる報告もみられた。

「現代の社会と人間の在り方生き方」においては、時事的な話題を取り上げ、それを生徒の日常生活や興味と結びつけた上で、仕組みや制度の意義を考えさせたり、目的を理解させるような指導を工夫している多くの例がみられた。

「現代の社会生活と青年」では、「関心・意欲・態度」の観点において実現状況が高く、進路ガイダンスの一環で行っている「先輩の語る職業を聞く会」を活用して、社会と自分とがどのように関わっていったらよいか具体的に考えさせようと試みている例がみられた。

「現代の経済社会と経済活動の在り方」では、時事的な話題を取り上げ、それを生徒の日常生活の興味と結びつけ、その上で、仕組みや制度という観点を引き出すような指導をしたり、話し合いなどの活動を行うことにより、「知識・理解」について成果をあげている報告もあった。

「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」では、すべての観点において高い実現状況がみられ、授業においてICTを活用することにより、日本を取りまく国際社会の動向が身近なものとして感じられるような工夫をして成果をあげたという報告がみられた。

[ 倫理 ]

「青年期の課題と自己形成」では、青年期の意義について自己の課題とつなげて理解を深めさせるために、発達心理学者や企業経営者などの自伝から悩みや葛藤を取り上げさせたり、青年期を取り扱った作品を生徒同士で紹介させたりするなどし

て主体的な学習を促している指導事例がみられ「関心・意欲・態度」の実現状況も高い傾向がみられた。

「人間としての自覚」では、特に印象に残った先哲との対話文を作成し発表させるなど、自らの生き方とのかかわりを重視する指導を行っているが、人間の存在や価値にかかわる課題を見出した対話までには至っておらず、「思考・判断」の実現状況が低い生徒もみられた。

「国際社会に生きる日本人としての自覚」では、日本人の生き方や考え方について先哲の資料を読み取らせたり、自分の考えを書かせたりする指導を充実させることによって、「技能・表現」の実現状況を高めるとともに、生徒自身の生き方の自覚や自己の確立につなげる必要があるという指摘があった。

「現代に生きる人間の倫理」では、これまでの思想史的な学習内容をテーマによってとらえ直そうとする指導事例がみられるが、評価方法については、依然として個々の先哲の思想内容が中心となっている。また、他の中項目に比べて、科学技術の根底にある基本的な見方や考え方、民主社会における人間の在り方などの内容が抽象的で難しく、生徒にとって身近な問題としてとらえさせることが難しいという指摘があった。

「現代の諸課題と倫理」では、自ら問いを立てて論じるなど自己の課題とつなげた主体的な学習を促すことによって、生命の価値や生と死の問題などのそれぞれの課題について生徒自身が倫理・宗教・科学・経済などの観点から多面的な追究を行っている事例がみられた。

#### [ 政治・経済 ]

「現代の政治」のうち、国内の政治に関する学習については、政治参加の意義についても十分な思考がなされていないことや、他の事象との関連にまで思考が深められていなかったりする状況がみられた。しかし、「現代の政治」というテーマで課題追究学習をさせ、レポートを書かせたことや死刑制度についてディベートを実施したり、新聞の切り抜き、裁判傍聴への参加などを行い、「関心・意欲・態度」の実現状況が高まったという例も報告されている。また、国際政治に関する学習でも、生徒がニュースなどで見聞きする国際情勢や紛争などを授業の導入に用いるなどの工夫がみられた。

「現代の経済」では政治的分野の学習に比べると、生徒は学習内容に難しさを感じている状況がみられた。「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」の実現状況は低い傾向であったが、レポートの作成などを通して生徒に問題点を明らかにして考えさせるなど、主体的に取り組んでいこうとする指導姿勢がみられた。

「現代社会の諸課題」では、授業への興味も高く、「答えのない課題」に取り組む面白さを感じた生徒が多かったようであり、「関心・意欲・態度」の実現状況は高い傾向であった。課題を追究するに当たって、異なる立場に立ってそれぞれの考え方を比較することは生徒も興味を持っていたようである。

また、課題を追究する力を育むに当たっては、この大項目だけではなく、年間を通して計画的に指導する必要があることを指摘している指定校もあった。

(数学)

[数学基礎][数学]

「社会生活における数理的な考察」では、点字の仕組みやバーコードの仕組みなど身近な事象を取り上げていることもあり、生徒の学習意欲の高まりが大いにみられた。

「身近な統計」では、度数分布表を作成しそれを活用して考察を進めることはできたが、統計に関する用語などの基礎的な知識を身に付けることが十分ではなかった。

[数学基礎]

「方程式と不等式」では、全般的に「関心・意欲・態度」の実現状況は高かったが、乗法公式や因数分解の公式を無理数の計算や数の計算に活用できない生徒が少なくなかった。また、不等式の解の意味、不等式の基本的な性質の理解が不十分な生徒も少なくなかった。二次方程式の解の公式については、平方完成が十分に理解されておらず解の公式を導くことのできた生徒は少数であった。また、計算に習熟していない生徒は、解の公式を学習すると、因数分解をして解を求められる方程式まで解の公式を用いて解を求めようとする傾向があった。具体的な事象に関連した問題を二次方程式を用いて解決することでは、正答に至らない生徒も少なくなかった。[数学]

「二次関数」では、全体的な理解は良かったが、計算に習熟していない生徒は、平方完成の計算を間違えたり、問題を解決する際にグラフを適切に用いることができなかつたりする傾向があった。特に二次関数のグラフと二次不等式の解の関係の理解が十分ではなかった。また、二次不等式を解く際に、因数分解の公式や解の公式を誤って用いる生徒も少なくなかった。[数学]

「図形と計量」では、基礎的な用語・記号の理解が十分ではなく、 $\sin = 30^\circ$  のような記述もみられた。三角比の定義や用語・記号を、教員は簡単だと考えがちであるが、生徒には分かりにくく定着しにくい状況があると考えられる。また、鈍角の三角比の理解が不十分で、公式を理解せず覚えようとする傾向もみられた。三角比の相互関係と鈍角の三角比では、「数学的な見方や考え方」で「C 努力を要すると判断される状況」と評価された生徒が半数以上であった。さらに、図形の証明について苦手意識をもつ生徒が少なくなく正弦定理や余弦定理の証明が十分には理解できない生徒もみられたが、これらの定理を活用して問題を解くことで三角比について学習意欲を高めた生徒もいた。相似形の面積比・体積比と球の表面積と体積でも「数学的な見方や考え方」で「C 努力を要すると判断される状況」と評価された生徒が多かった。中学校で学習する「相似」などの知識が定着していないことも原因として考えられる。[数学]

(理科)

[理科基礎][理科総合A][理科総合B]

「科学の始まり」では、火起し実験を通して、古代人の知恵や技術を再現し、科学の始まりと人間生活とのかかわりについて意欲的に探究しようとするなど、「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。[理科基礎]

「観察・実験の技能・表現」の観点においては、顕微鏡の操作方法、スケッチの

方法等を繰り返し指導したため，ほとんどの生徒が高倍率で確実に観察する技能を身に付け，実験を重ねるにしたがって的確に表現できるようになった。[理科基礎]

「資源・エネルギーと人間生活」では，日常生活との関連付けなどの工夫により高い実現状況となった。しかし，数的処理などの定量的な内容に関しては課題がみられた。[理科総合A]

「物質と人間生活」の「知識・理解」では，物質の変化をエネルギーの出入りと関連付けて理解することに課題がみられた。[理科総合A]

「科学技術の進歩と人間生活」では，最新の科学技術や身近な題材を扱うことで，生徒が探究したいという興味・関心を喚起することができ，「関心・意欲・態度」の実現状況に高い傾向がみられた。[理科総合A]

環境に関する内容については，生徒は関心が高く，積極的に取り組む傾向がみられた。[理科総合B]

地学的な内容については中学校の学習内容を踏まえ，発展的な内容を取り入れることにより，「関心・意欲・態度」の実現状況に高まりがみられた。[理科総合B]

#### [物理]

「電気」では，身近な事象の観察・実験を行うことにより，すべての観点において実現状況は高い傾向がみられた。

「波」では，波の重ね合わせなど，基本的な考え方に基づいて現象をとらえることに課題がみられた。

「運動とエネルギー」では，他の物理現象と関連させながら理解が進むよう指導の工夫がみられた。しかし，グラフによる運動の分析など数量的な取り扱いにおいて，「思考・判断」の実現状況が低い傾向であった。

「探究活動」では，生徒の意欲を高めながら探究活動を展開している事例が報告された。一方で，データの整理・分析に時間がかかるなどの報告もあった。

#### [化学]

「物質の構成」の「思考・判断」では，物質量や化学反応式の量的な関係などの計算をとまなう学習や，知識の積み重ねに基づき判断する学習に課題がみられた。

「物質の種類と性質」では，演示実験を多く取り入れたり，実物を見せたり，当該化合物を成分として含む市販品を回覧して成分表を確認させたりした結果，「関心・意欲・態度」の実現状況に高い傾向がみられた。

「物質の変化」の「観察・実験の技能・表現」では，生徒の実験技能の習熟度合いに差があっても，実験を2人1組の少人数で行ったり，実験を繰り返し行ったりした結果，基本的な実験操作や記録の仕方が身に付いた。

「探究活動」では，仮説の設定に課題がみられたが，最初は実験の予想から始め，ある程度条件を示しながら生徒自身が思考・判断する場面を設定すると効果的であった。

#### [生物]

「生命の連続性」では，観察，実験などを通して多くの生物や生命現象に直接触れさせる機会を設定することにより，「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。

また、ヒトの遺伝など生徒にとって身近な生命現象を取り上げることや、実験について、結果の予想をさせてから実施したり、自ら実験の計画を立てて実験を実施することが効果的であるとの報告があった。

「思考・判断」の観点の実現状況が他の観点に比べ低い傾向がみられたが、これは、数的処理に不慣れなことが原因の一端になっているとの報告があった。また、「知識・理解」についても基礎的な生物用語の定着が不十分な面がみられた。

#### [ 地学 ]

実物の化石標本の観察や天体観測など野外実習を実施すると「関心・意欲・態度」の実現状況に高まりがみられた。指定校においては、天体望遠鏡の台数を確保し、観測の時間の確保や実施時期の工夫が行われていた。

モデル実験、模型、デジタルコンテンツやインターネット配信などによるシミュレーションを活用することにより「知識・理解」の実現状況の高まりがみられた。

#### ( 保健体育 )

##### [ 体育 ]

体育においては、3年間を見通し、学年ごとに学習内容を整理し、それに基づく指導計画を立てて学習活動における具体の評価規準を設定して指導を行った結果、すべての観点でおおむね高い実現状況がみられた。

当該学年で始めて領域を選択するなど、その運動種目に対して経験の少ない生徒が多く含まれる場合、単元のはじめに一斉指導を行い、各々の技能に応じた技を選択させてから練習に移るなどの指導の工夫や、経験者との練習から技術的なポイントをつかませたりするなどの工夫を行うことで、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」の実現状況の高まりがみられた。

「体づくり運動」では、体育理論を活用し、運動の意義や実践を交えながら「体づくり運動」の仕方を理解させ、個人差をノートに記録させたり、自分や仲間の心身の状況の変化なども観察したりする指導を行った結果、すべての観点で高い実現状況がみられた。

##### [ 保健 ]

指定校のすべての内容領域・観点において、生徒の実現状況は高い傾向がみられ、グループによる話し合いや応急手当の実習をとり入れるなどの多様な指導方法の工夫が、高い実現状況に結びついたとの報告があった。

「A 十分満足できる状況」の割合は、「関心・意欲・態度」では、高い傾向であったが、「思考・判断」については、全体として低い実現状況であった。

#### ( 芸術 )

##### [ 音楽 ]

「歌唱」については、作曲者が楽譜に記した内容を考えさせる学習を大切にした

事例では、生徒の表現の幅が広がり、すべての観点の実現状況が高かった。一方、用語や記号にかかわる基本的な理解について習熟の度合に差がみられた。

「器楽」については、<sup>もろ</sup>箏などの和楽器に対して意欲的に取り組む状況がみられた。特に、生徒自身で箏柱を立てる活動は、我が国の音楽で用いられる音階の特徴を発見するなどの成果があった。また、リコーダーと篠笛の響きや奏法の違いを体験させる学習では「芸術的な感受や表現の工夫」の実現状況が高かった。一方、「創造的な表現の技能」に課題がみられた。

「創作」については、創作に関する学習に充てる時数が少ない傾向にあった。

「鑑賞」については、表現媒体、音色やリズムなどの音楽の諸要素の違いに着目させた事例では、「関心・意欲・態度」や「芸術的な感受や表現の工夫」の実現状況が高かった。一方、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽などを教材として幅広く取り上げることについては課題がみられた。

## [ 美術 ]

「絵画・彫刻」では、ワークシートによる自己分析や、固定的な見方を広げるための具体的な方法を示すなどの指導において、多くの生徒に「芸術的な感受や表現の工夫」の高まりがみられた。

「デザイン」では、題材に幅を持たせ生徒がテーマを選んで制作できるようにする指導において、多くの生徒に「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。また、「創造的な表現の技能」では、技法や制作の手順を理解し見通しを持っている生徒は、実現状況が高い傾向がみられた。

「映像メディア表現」では、コンピュータを使った表現においては、手描きではアイデアスケッチは思い浮かびにくかったが、コンピュータを使うことにより絵が描け、「芸術的な感受や表現の工夫」の実現状況が高まったという報告があった。

「鑑賞」では、林派の作品を中心に、装飾性、象徴性、空間表現など、日本の美術に見られる美意識や創造的な精神を理解させるなどの指導において、多くの生徒に「鑑賞の能力」の高まりがみられた。一方、鑑賞したことを文章にする力に課題があるという報告があった。

## [ 工芸 ]

「工芸制作」では、身近な題材を取り上げたり、初めての素材を扱ったりするなど、題材や素材の選択を工夫するなどの指導において、多くの生徒に「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。また、「創造的な表現の技能」に関連して基礎的な技能の習得が学習のねらいの実現に大きく影響するという報告があった。

「プロダクト制作」では、生徒同士で話し合いをし、消費者の立場になって意見を述べ合うことにより社会性を考えてアイデアを深めることに繋がり、多くの生徒に「芸術的な感受や表現の工夫」の高まりがみられたという報告があった。

「鑑賞」では、実際に作品を手にとって使いやすさや質感を味わうことにより、多くの生徒に「鑑賞の能力」の高まりがみられたという報告があった。

## [ 書道 ]

「漢字仮名交じりの書」については、いろいろな表現に触れることによって、「芸

術的な感受や表現の工夫」の実現状況に高い傾向がみられたが、「創造的な表現の技能」については、漢字と仮名の調和や表現技法を身に付けることに課題がみられた。

「漢字の書」では、楷書の様々な書風や、用筆法によって多様な表現が可能であることなどに関心が高く、「関心・意欲・態度」の実現状況は高い傾向であった。

「芸術的な感受や表現の工夫」や「創造的な表現の技能」についても実現状況は高い傾向であるが、抑揚、緩急、筆勢など基礎的な表現技法を身に付けることに課題がみられた。

「仮名の書」については、仮名の成立に至る過程や用具用材について関心が高く、「関心・意欲・態度」の実現状況は高い傾向がみられる一方、「創造的な表現の技能」について、墨継ぎや全体の構成の把握に課題がみられた。字形や構成を確認するために、まず鉛筆で臨書し、その後毛筆で書くという学習指導に実現状況の向上がみられた。

「鑑賞」については、書風の違いを認識することはできるが、それぞれの古典の特徴を言葉を使って説明することに課題がみられた。最初は整った書風しか認められない生徒も、古典の臨書学習を通して、筆の扱いに慣れたり、特徴への理解が深まると、いろいろな表現に対して肯定的な見方ができるようになった。

(外国語)

[オーラル・コミュニケーション][英語]

教師がオーラル・イントロダクションや指示をわかりやすい英語で行うことにより、英語によるコミュニケーションへの「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。

[オーラル・コミュニケーション][英語]

定型表現にとどまらず、自分の考え・意見などを伝えるというコミュニケーション活動を通して、英語によるコミュニケーションへの「関心・意欲・態度」の高まりがみられた。[オーラル・コミュニケーション][英語]

教師がモデルになるなどして、各授業で十分な音声指導を行うことにより、「相手に伝わるよう大きな声で音読することができる」などの初歩的な「表現の能力」の高まりがみられた。[オーラル・コミュニケーション][英語]

役割を明確にしたペア・ワークやロール・プレイなどのコミュニケーション活動を通して、「表現の能力」の高まりがみられた。[オーラル・コミュニケーション]

[英語]

英文を書く指導をする際、トピックや目標語数を指定するだけでなく、より具体的な目標(表現形式、文章構成、立場)を明示した活動を通して、「表現の能力」に高まりがみられた。[英語]

高校生の知的好奇心に相応しいテーマ(国際協力、自分の将来の職業など)についてのコミュニケーション活動を通して、「表現の能力」に高まりがみられた。[英語]

(家庭)

[ 家庭基礎 ][ 家庭総合 ][ 生活技術 ]

「人の一生と家族・福祉」では、ロールプレイや聞き取り調査、実習のまとめとして、子どもの発達や保育環境についてクラスで意見を出し合いながら検討するなどの学習活動を通して、生涯発達の視点で各自の生き方とライフステージについて考えを深めるとともに、男女が協力して家族の一員としての役割を果たすことの重要性について実感を伴った理解が深まり、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現・技能」「知識・理解」いずれも実現状況が高い傾向がみられた。[ 家庭基礎 ]

「家族の生活と健康」では、「食生活の管理と健康」や「衣生活の管理と健康」において、特に栄養素や被服管理などの基礎的な知識が身に付いていないなど、「知識・理解」の実現状況が低い生徒がみられた。[ 家庭基礎 ]

「消費生活と環境」では、視聴覚教材や自分の問題として捉えられるようなワークシートなどの実践的な学習を通して、「関心・意欲・態度」「思考・判断」についての実現状況が高くなる傾向がみられた。しかし、授業で学習したことを応用して考えたり、実生活に活用したりする課題については、「表現・技能」「知識・理解」とも実現状況が不十分な生徒がみられた。[ 家庭基礎 ]

「生活の科学と文化」の「食生活の科学と文化」では、生徒の実生活に即した課題を取り上げて食生活を考えさせ、調理実習を重ねることによって実生活に活用する技術が高められ、「関心・意欲・態度」「試行・判断」「表現・技能」についての実現状況は高くなった。しかし、「知識・理解」については生活とかかわらせて科学的に理解することについては不十分な生徒がみられた。[ 家庭総合 ]

「子どもの発達と保育・福祉」の「子どもの発達」では、効果的な視聴覚教材を活用することにより「関心・意欲・態度」「知識・理解」の実現状況は高かったが、「思考・判断」については実現状況が低い傾向がみられた。[ 家庭総合 ]

「衣生活の設計と製作」では、「被服の構成と製作」において生徒の地域や実態に応じた教材を扱い、製作過程に応じた実物の部分見本、プリントなどを効果的に組み合わせ活用することによって「関心・意欲・態度」「表現・技能」については実現状況が高い傾向がみられた。しかし、実習で実施したことを定期考査等で評価しようとする、「知識・理解」については実現状況が低い傾向がみられた。[ 生活技術 ]

(情報)

[ 情報 A ][ 情報 B ][ 情報 C ]

情報機器やアプリケーションソフトウェアなどを使いこなすための基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指す指導によって、「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。[ 情報 A ]

「情報の統合的な処理とコンピュータの活用」では、取得した知識と技術を実習を通して定着化させるために総合実習を実施した。このことによって、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。[ 情報 A ]

「情報機器の発達と生活の変化」では、情報機器の発達過程を社会的背景を伝えることを通して指導することによって、情報技術が進展してきた必然性を理解することができた。また、これからの情報社会を生き抜くためにどのような能力と態度が必要かを明らかにすることができ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。[情報A]

「コンピュータの仕組みと働き」や「問題のモデル化とコンピュータを活用した解決」では、他教科、特に数学科と学習連携を図ることによってアルゴリズムやシミュレーションを中心として積極的にコンピュータを活用することができ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。[情報B]

「情報技術における人間への配慮」では、Webコンテンツの閲覧を通じた調べ学習と学習プリントの作成により情報通信ネットワークをはじめとする情報技術の仕組み、役割、影響について理解を深めることができ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。[情報B]

プレゼンテーション発表では、生徒間の相互評価、自己評価を重視する評価を行うことによって、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。特に、相互評価、自己評価を繰り返し行わせることにより、評価の客観性は向上し、作品評価の要素として組み入れることができるようになった。[情報C]

## 高等学校

### －職業に関する専門教科－

(農業)

[農業科学基礎][環境科学基礎]

「農業生物と栽培環境」の「葉根菜類の栽培・利用」においては、グループ学習で、メンバー構成の工夫、活動中の個別活動の割合、複数での指導などの工夫を行うことにより、「技能・表現」の実現状況に高まりがみられた。[農業科学基礎]

「農業生産の基礎」の「スイカ栽培」においては、「思考・判断」の実現状況が高く、「知識・理解」の実現状況が低い傾向であった。また、「農業生産の基礎」の「病気と害虫の予防対策」においては、「技能・表現」の実現状況が高く、「知識・理解」の実現状況が低い傾向であった。[農業科学基礎]

「農業生産の基礎」の「鶏の飼育」では、自ら調査したデータを整理し、その結果を考察し発表に至る指導の工夫がみられた。このような指導は、すべての評価の観点において実現状況を高めることに効果的であるとの報告があった。[農業科学基礎]

「環境調査の実際」の「地域環境の調査と発見」においては、「技能・表現」と「知識・理解」の実現状況は高い傾向であったが、「思考・判断」の実現状況は低い傾向であった。[環境科学基礎]

(工業)

[工業技術基礎]

中学校教育との関連を図りつつ、生徒が専門の学習に円滑に進むことができるよう地域、学校や生徒の実態、学科の特色等に応じ、多様な形態で実施されており、すべての観点において実現状況は高い傾向であった。

入学して間もない1年生が学ぶ基礎的な科目であることを踏まえ、実験・実習形態で、一斉指導ではなく、一班十数名のグループでローテーション学習を行うなど、少人数の指導により、全体として学習成果の向上がみられ、すべての観点について、実現状況は高い傾向であった。

[工業技術基礎]の学習内容には危険な作業もあり、事前の安全指導を徹底することにより、「技能・表現」の実現状況は高い傾向がみられた。

実技の習熟を伴う指導内容の「基礎的な加工技術」と「基礎的な生産技術」では、すべての観点において、「A 十分満足できる状況」と「B おおむね満足できる状況」の割合は、全般的に低い傾向であった。

同一校内において学科の特色に応じ、評価のポイントの項目数に差がみられたが、すべての観点において、生徒の実現状況に差はみられなかった。

(商業)

[ビジネス基礎]

「商業の学習ガイダンス」では、「関心・意欲・態度」の観点について、評価規準「商業を学ぶ目的や商業の科目を学ぶ意義について関心を持ち、自分から進んで調べたり、まとめたりしようとする。」を設定し、資料の収集、整理、まとめ、発表の4つを総合的に評価した。その結果、自ら資料を収集し、まとめ、発表でき、生徒の実現状況は高い傾向がみられた。

「経済生活とビジネス」では、ビジネスの役割と自分の進路の関わりについて考え、どのようなビジネスがあるか調べ、そのビジネスについての諸問題についてまとめることができ、「関心・意欲・態度」についての実現状況は高い傾向がみられた。また、「思考・判断」についても、新聞記事の中から経済に関する身近な事例を切り抜き、なぜ切り抜いたかという理由とその記事に対する自分の意見をまとめ、提出することができ、生徒の実現状況は高い傾向がみられた。

「ビジネスと流通活動」では、「思考・判断」の観点については、キーワードや内容の要約の記述が特に適切と認められることを「A 十分満足できる状況」とし、キーワードや内容の要約が記述できていることを「B おおむね満足できる状況」として評価した。ショッピングセンターの開店について、メリットとデメリットを含めて、自分なりの意見を持っており、「思考・判断」の観点についての実現状況は高い傾向がみられた。また、「技能・表現」の観点については、自分の意見をしっかりと記述していることを「A 十分満足できる状況」とし、わかりやすくまとめて記述していることを「B おおむね満足できる状況」として評価した。ポイントとなる部分を聞き分け、的確にメモを取ることができるかどうかにより大きな差がみられた。

「ビジネスと売買取引」では、「ネットショッピング」のメリットとデメリットを踏まえた感想・意見がよくまとめられおり、「技能・表現」の観点についての実現状況は高い傾向がみられた。また、生徒個々の自由な発想によるまとめをねらいとしていることから、見るものにわかりやすいように工夫されていることがわかった。

「外国人とのコミュニケーション」では、「思考・判断」の観点については、日本のことを外国人に英語で説明・紹介することができるようになり、生徒の実現状況は高い傾向がみられた。また、日本の物事を外国人に説明するときには、単に英語で表現しても通じないときがあることを説明する必要があることから、補足する教材を使用する例もみられた。

(水産)

[水産基礎]

「海のあらし」では、身近な習俗や祭りについての調査などを通して、海と人間との関わりに対する「関心・意欲・態度」の観点についての実現状況は高い傾向がみられた。

「水産業と海洋関連産業のあらし」では、水産物を利用する際の衛生的な取扱

いと適切な温度管理について自ら考えることができるようになるなど、「思考・判断」の観点についての実現状況は高い傾向であった。

「船のあらし」では、漁船の構造や、機関・通信・漁労・救命の各設備などについての「知識・理解」の観点において十分でない生徒がみられた。

「基礎実習」では、海況に応じた漕法や艇の速度に応じた漕法など、漕法の応用を身に付けるなど、「技能・表現」の観点についての実現状況は高い傾向がみられた。

## （家庭）

### 〔生活産業基礎〕

「生活と産業」では、身近な産業について具体的に取り上げることによって、学習している内容と職業とのかかわりを明確に意識でき、「関心・意欲・態度」の観点についての実現状況は高い傾向がみられた。

「社会の変化と生活産業」では、グループにおける調べ学習などを通して「興味・関心・意欲」「思考・判断」の実現状況は高かったが、社会の変化に伴う産業構造の変化などを分かりやすくまとめ、理解する「技能・表現」「知識・理解」については、不十分な生徒がみられた。

「生活産業と職業」については、関連する職業の情報収集等の具体的な事例を取り上げるなどの工夫により「興味・関心・意欲」の観点についての実現状況が高くなった。

「職業生活と自己実現」では、職業人に必要な資質を取得するための自己の課題を深めるなど「思考・判断」の観点についての実現状況は高い傾向であった。

## （看護）

### 〔基礎看護〕

「看護の意義と役割」では、生徒は将来看護職となることを目指して入学していることから、看護の学習に対する興味・関心はもともと高い傾向であり、その意義と役割について具体の事例を取り扱うことにより、さらに「関心・意欲・態度」の実現状況の高まりがみられた。

「日常生活と看護」では、各单元において学習する日常生活の援助方法について、援助時に想定される危険や対象者の苦痛を自らの生活習慣と結びつけて考えさせることにより、各看護技術の原理・原則や安全・安楽に実施する方法について理解を深めるとともに、創意工夫をしてよりよい援助方法を考えるなど、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の実現状況が高い傾向がみられた。

「診療と看護」では、医学や医療に関する基礎知識が各单元の学習の基盤となること、および診療に関する看護技術にはより正確で高度な手技等が求められることから、基礎的知識の習得の確認が不十分である場合や、技術の修得にかかる指導時間が不十分な場合などは、「知識・理解」、「技能・表現」の実現状況に課題がある单元もみられた。

「看護活動の展開」では、科目「看護臨床実習」と関連付けるため、臨床実習で

体験する頻度の高い症例について取り上げ、コミュニケーション技術に関するロールプレイングやペーパーペイシエントによる看護過程展開の演習を実施したことにより、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」の実現状況が高い傾向がみられた。また、これらの学習をグループワークとしたことにより、「技能・表現」、「知識・理解」の実現状況は生徒間の偏差を少なくすることができ、全体として一定の到達度を確保することができた。

#### (情報)

##### [情報産業と社会]

「情報化と社会」では、大規模販売実習(仮称「サイバー百貨店」)を実施することによって、情報機器と情報技術にかかわる知識と技術並びに情報モラルの必要性と情報セキュリティの重要性を体験を通して学ぶことができ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現に高い傾向がみられた。特に、自主性、自己表現力、職業倫理を効果的にはぐくむことができた。

「情報化を支える科学技術」では、外部の検定試験等の受験を目標に設定することによって、学習への意欲、関心を高めるとともに、ハードウェア及びソフトウェアにかかわる基礎的・基本的な知識と技術の習得を確実に行うことができたので、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のいずれも実現状況に高い傾向がみられた。

#### (福祉)

##### [社会福祉基礎]

「社会福祉の理念」では、身近な生活課題を具体的に取り上げることによって、学習している内容とのかかわりを明確に意識することができ、「関心・意欲・態度」の観点についての実現状況が高くなる傾向がみられた。

「自立生活支援と社会福祉」では、グループによる調べ学習や自分の問題として捉えられるワークシートを活用する学習活動を行うことによって、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」の観点についての実現状況が高くなる傾向がみられた。

「社会福祉分野の現状と課題」では、新聞などを題材としながら、現在と関連付けて学習することにより、「関心・意欲・態度」の観点についての実現状況が高くなる傾向がみられた。

#### 4 平成15・16・17年度全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業指定校

##### 【高等学校】(教科別)

###### [普通教科]

- (国語) 山形県立上山明新館高等学校, 千葉県立千葉西高等学校(平成16・17年度), 東京都立文京高等学校(平成17年度), 神奈川県立横浜桜陽高等学校(平成17年度), 愛知県立安城南高等学校, 兵庫県立播磨南高等学校(平成17年度)
- (地理歴史) 宮城県宮城野高等学校, 千葉県立白井高等学校(平成16・17年度), 神奈川県立鶴嶺高等学校, 神奈川県立横須賀大津高等学校(平成16・17年度), 石川県立松任高等学校, 沖縄県立普天間高等学校
- (公民) 茨城県立水海道第一高等学校, 千葉県立船橋北高等学校(平成17年度), 神奈川県立鶴嶺高等学校, 神奈川県立横須賀大津高等学校(平成16・17年度), 新潟県立高田高等学校, 鳥取県立境高等学校, 広島市立基町高等学校(平成17年度), 長崎県立国見高等学校
- (数学) 青森県立八戸西高等学校, 宮城県農業高等学校(平成17年度), 筑波大学附属高等学校(平成16・17年度), 岐阜県立本巣高等学校(平成15年度), 岐阜県立本巣松陽高等学校(平成16・17年度), 兵庫県立北条高等学校(平成16年度・17年度), 奈良県立高田高等学校, 広島県立因島高等学校(平成16・17年度), 高知県立禰原高等学校
- (理科) 北海道札幌丘珠高等学校, 青森県立八戸西高等学校, 群馬県立高崎東高等学校, 千葉県立君津高等学校(平成17年度), 筑波大学附属高等学校(平成16・17年度), 新潟県立高田高等学校, 滋賀県立長浜北高等学校, 山口県立岩国工業高等学校, 鳥取県立境高等学校, 佐賀県立佐賀北高等学校, 大分県立日出暘谷高等学校
- (保健体育) 山形県立上山明新館高等学校, 群馬県立高崎東高等学校, 山梨県立上野原高等学校, 山梨県立石和高等学校, 岡山県立岡山大安寺高等学校
- (芸術) 宮城県宮城野高等学校, 宮城県宮城広瀬高等学校(平成17年度), 千葉県立市川東高等学校(平成17年度), 東京都立文京高等学校(平成17年度), 神奈川県立磯子高等学校(平成17年度), 愛知県立安城南高等学校, 京都府立亀岡高等学校(平成17年度), 大阪府立南寝屋川高等学校, 大阪府立豊中高等学校(平成17年度), 大阪府立柴島高等学校(平成17年度), 山口県立岩国工業高等学校, 佐賀県立佐賀北高等学校
- (外国語) 山梨県立上野原高等学校, 山梨県立石和高等学校, 大阪府立南寝屋川高等学校, 兵庫県立北条高等学校(平成16・17年度), 岡山県立岡山大安寺高等学校, 広島県立因島高等学校(平成16・17年度), 福岡県立早良高等学校(平成16・17年度) 沖縄県立普天間高等学校
- (家庭) 北海道札幌丘珠高等学校, 青森県立平内高等学校(平成17年度), 岐阜県立本巣高等学校(平成15年度), 岐阜県立本巣松陽高等学校(平成16・17年度), 奈良県立高田高等学校, 山口県立熊毛北高等学校(平成17年度), 大分県立日出暘谷高等学校
- (情報) 茨城県立水海道第一高等学校, 千葉県立柏陵高等学校(平成17年度), 石川県立松任高等学校, 滋賀県立長浜北高等学校, 兵庫県立播磨南高等学校(平成17年度), 高知県立禰原高等学校, 長崎県立国見高等学校

###### [職業に関する専門教科]

- (農業) 熊本県立熊本農業高等学校(平成16・17年度)
- (工業) 山形県立鶴岡工業高等学校(平成16・17年度), 栃木県立足利工業高等学校(平成16・17年度)
- (商業) 徳島県立徳島商業高等学校(平成16・17年度), 宮崎県立宮崎商業高等学校(平成16・17年度), 宮崎県立都城商業高等学校(平成16・17年度)
- (水産) 北海道小樽水産高等学校(平成16・17年度), 千葉県立銚子水産高等学校(平成16・17年度)
- (家庭) 埼玉県立越谷総合技術高等学校(平成16・17年度), 兵庫県立社高等学校(平成16・17年度)
- (看護) 北海道美唄聖華高等学校(平成16・17年度), 仁愛高等学校(福島県)(平成16・17年度), 長崎県立五島高等学校(平成16・17年度)
- (情報) 太田市立商業高等学校(平成16・17年度)
- (福祉) 山形県立山辺高等学校(平成16・17年度)